

# 3年学年だより

吹田市立第二中学校 第三学年  
平成28(2016)年11月2日(水)発行  
No.32

## 人生の岐路に仲間と共に立っています。

コノサカヅキヲ受ケテクレ  
ドウゾナミナミツガシテオクレ  
ハナニアラシノタトヘモアルゾ  
「サヨナラ」ダケガ人生ダ



ずっと同じ道を歩んできました。気づけば、そばにいました。苦楽を共にしてきました。いることが当たり前でした。

遠くに分かれ道が見えます。「同じ道は行けない。」…どう声をかける？

自分の将来と向き合い、人生の進路を決める分かれ道に、今、君たちは立っています。今まで、義務教育を受けてきた君たちが、初めて自分の意志で進む道を決めなければいけないのです。自分の人生を左右する大きな決断です。

人生の岐路に立っている君たちは、不安や迷いがあるのが当然です。今の時期に不安や迷いのない人なんて、誰もいないはず。そこと向き合って、乗り越えて、がんばることに価値があるのではないのでしょうか。

ひとりでがんばるのがしんどければ、仲間がいます。

しんどいことがあれば、弱音を吐ける。相談できる。しんどそうな顔をしている人がいたら気づいてあげられる。辛いこと、しんどいことを「はんぶんこ」できるつながり。

うれしい事があればいっしょに喜べる。いっしょに笑える。うれしい事、楽しい事は「2倍」にできるのがつながり。

今こそ、みんなが作ってきたつながりを頼る時ではないでしょうか。

「花に嵐のたとえもあるぞ さよならだけが人生だ」という詩は中国で300年ほど続いた唐の時代（日本で言うと大体平安時代くらい）の、五言絶句の唐詩です。この詩を一気に有名にしたのは、冒頭の井伏鱒二の名訳です。

後半の二行だけを読むと何か寂しくありませんか？

「花に嵐のたとえもあるぞ」は花が嵐に遭って散っていく情景が思い浮かびます。「さよならだけが人生だ」は突き放した、そっけない言葉とも取れます。

実は本来の意味は、

「さよならだけが人生だから、今この出会い、時間を大切にしよう」ということなんだそうです。

今この酒を飲み干して今を楽しく生きよう、すぐに別れは来るけれど今はここで膝を突き合わせているから、ということです。

自分の進路のため。仲間の進路のため。望ましい関係は見つかったのでしょうか？

